

## 第 129 回「言葉の院外処方箋」

先人達の知恵の紐解き ～ 文化の中の健康 ～

2022年9月28日2限目(10:45～12:20)の順天堂大学医学部1年生の公衆衛生学講座の『M1 文化の中の健康』の授業『がん哲学』を担当した。学生の感想シートが送られてきた。誠実な真摯なコメントには、大いに感動した。将来立派な医師になることであろう。湯浅資之先生から「大変ご多忙の折にもかかわらず、ご講義お疲れ様でした。先生の含蓄ある『がん哲学』のお話は、学生にも大きな影響を及ぼしていると確信します。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。」との心温まる励ましのコメントを頂いた。

講義を終えて、御茶ノ水デーリフランスに参上し、出版社の方と面談した。新刊の企画が楽しみである。新渡戸稲造(1862-1933)生誕160周年記念としてタイトルは、『人生邂逅の3大法則～良き先生、良き友、良き読書～』の予感がする。もし、本当に実現したら歴史的快挙となろう！先日は、別の出版者から【『内村鑑三と新渡戸稲造が、うつ状態に陥った時』のお話を、ぜひお聞かせください】との希望が寄せられた。不思議な復学の時である。夕方(2022年9月28日:18:30～20:00)は、新渡戸稲造記念センター長を務める「新渡戸記念中野総合病院」の脳神経内科・脳神経研究室(新渡戸脳研主催:内原俊記先生、比嘉紀子様)の『第526回新渡戸記念中野総合病院新渡戸グローバルCPC』(Zoomとのハイブリッド開催)に出席した。日々勉強である。

2022年9月30日は、『吉田富三記念 福島がん哲学外来』(福島県立医科大学附属病院 臨床腫瘍センターがん相談支援センターに於いて)に赴く。【福島県出身の世界的病理学者 吉田富三(1903-1973)博士を記念して、博士の孫弟子である樋野興夫先生が『福島がん哲学外来』を開設しました。がんと共に生きる患者/ご家族の思いや悩みをともに考える“心の診察室”です。がんと共に生きる意味やコツを 樋野興夫先生が先人達の知恵を紐解き一緒に考えます。】と紹介されている。『吉田富三記念 福島がん哲学外来』は、2009年に開設された。筆者の癌研時代の恩師:今は亡き菅野晴夫(1925-2016)先生は、吉田富三の愛弟子で、菅野先生の下で「吉田富三生誕百年記念事業」を行ない、多くを学んだ。本当に貴重な人生の出会いとなった。